

奉行に歴任して令名があり、又餘技として狩野畫を能くした。萬延・文久の交に歿。

コダマシヨウケン 兒玉松軒 越前浪人で馬術に達して居た。初め吉崎に居住して雄鹿を飼養し、是に皆具を仕懸けて福井・大聖寺へ乗つて出たが、異形の故を以て福井藩の吏から咎められ之を廢した。後大聖寺に來つて醫を業とし、素讀を教授したが、老いて子を喪ひ、愁嘆の餘和歌二首を詠じて全昌寺なるその碑に彫らしめ、後己も亦こゝに葬られた。享保前後の人。

コダマシヨウジ 兒玉小路 金澤の町名。並木町から材木町六七丁目の間へ出る小路をいふ。龜尾記に、藩士兒玉氏の居邸があつたための稱であるといえる。明治四年四月戸籍編成の時、小路の稱を多分廢したが、兒玉小路のみは今も一町の名目となつてゐる。

コダマシ 兒玉慎 大聖寺藩士。字は士敬、通稱三郎、旗山と號した。兒玉仁右衛門の三子である。享和元年四月十六日に生まれ、二十六歳にして京師に出で、頼山陽の學僕となつたが、山陽頗る其の才を愛し、心力を傾倒して之を教へた爲、遂に帷を下して諸生に授くるに至つた。山陽歿後、慎師の爲にその書後題跋を集めて一卷となし、之を世に公にした。慎の筆跡は山陽に酷似し、歌を較べて人に品せしめるときは、皆山陽の書する所としたほどであつた。天保六年正月廿六日京に歿した。年三十五。門生相謀つて東山長樂寺なる山陽の墓側に葬つた。

コダマゼン 兒玉善 大聖寺藩士。通稱仁右衛門。諱は善又は家定、字は子勲、號を北海といふ。父は仁右衛門則忠で、後に平蔵と改めた。善享保十二年に生まれ、寶曆九年六月父の隠棲の後を受けて、家祿百五十石を襲ぎ、御馬廻に列し、家學を傳へて北條流の兵法に精しく、殊に正智流の槍術に達し、老後名を怡源と改め、天明五年四月二十七日五十九歳を以て歿した。

コダマソウ 兒玉雙 大聖寺藩士。通稱仁右衛門。仁右衛門善の子でその後を受け、正智流槍術の指南をした。雙の長子に延があり、三子に愼がある。

コダマヤトウジ 兒玉彌藤次 前田綱紀に仕へた掃除坊主兒玉正齋の次男で、初め順悦と稱し、吉徳の世子であつた時居間坊主を勤めたが漸く取立られ、享保十五年には新知百三十石を賜はり、新番となり、十七年百石、十八年百石、元文二年百五十石、四年七月百石、五年正月百五十石、同年十二月百石、寛保二年十二月百石、三年十二月百五十石を加増せられて、計千八十石となり、延享二年大將組に班せられ、同年十一月馬廻組に遷り、寶曆十一年九月九日五十七歳にて歿。其の子求馬遺知の内五百石を賜はつて子孫連綿した。蓋し彌藤次は、立身の速かなることに於いて、當代の大槻朝元と雙璧である。

コダヤ 小田屋 鳳至郡南志見郷に屬する部落。

ゴタンダ 五反田 河北郡井上庄に屬する部落。

ゴチク 五竹 ↓アダチゴチク 足立五竹。落で、南木津北木津に分かれる。姓氏録に木津忌寸が見えるから、それ等の氏が居た地かも知れぬとする説があるが確強であらう。

コツカウンベイ 小塚雲平 享保六年養父所左衛門の遺知百五十石を襲ぎ、後預玄院附御用人となり、寛保元年五十石を加へ、寶曆十一年七十三歳を以て歿した。

コツカゴンダユウ 小塚權太夫 前田利家に尾張で仕へ、後に兄藤右衛門の遺跡を襲ぎ、本祿三千七百石を受けた。權太夫鳥越・末森・巖石・八王子・大聖寺の諸役に從軍し、功によつて漸次九千石に上り、越中泊城を守つた。慶長七年太田長知の誅に服した後、大聖寺城の守將に轉せしめられたが、赴任の爲金澤に歸つて病死した。子なく、兄秀正後を襲ぐ。

コツカゼンザエモン 小塚善左衛門 寛文五年祖父平兵衛遺知の内二百石を襲ぎ、御馬廻に班し、外作事奉行・改作奉行・御近習番を経て、元祿九年御横目兼御算用場奉行になり、同年百五十石を加へたが、長瀬新八郎と口論した廣で、元祿十六年二月六日知行を召放ち、妻子とも能登島園村に遣はされ、享保五年御免、六年閏七月朔日歿した。

コツカタクミノスケ 小塚内匠助 小塚淡路秀正の嫡子。父の在世中召出され、その先知五百石を受け、慶長十九年大坂の役に従ひ、翌年夏の役に五月廿六日創を受け、歸陣の途中で死んだ。

コツカチヨウ 小塚町 金澤の舊町名。懷蕪夜話に、樫田兵藏の屋敷を小塚町堀宗叔向とし、今は宗叔町とのみ稱して小塚町とは言はぬとしてある。元來小塚氏の邸があつた爲の稱呼であるが、次に宗叔町の一部となり、明治四年四月戸籍編成の際更に玉川町と改められたものである。

コツカトウエモン 小塚藤右衛門 仁左衛門の嫡男。弘治年中前田利家に仕へ、世にいふ荒子衆の一人である。元龜元年近江小谷の役、天正元年刀根山の役に陣出して功を立てた。三年越前府中で二百石（陳善録による。中緒には二百五十石）を賜はり、利家が能登に封を移してから三千七百石となつた。後十一年柳瀬の役に出陣し、四月利家の退却に際し、三たび反撃して遂に之に死んだ。

コツカニザエモン 小塚仁左衛門 前田利家の尾張荒子にある時から之に仕へた。慶長十四年に歿し、長子藤右衛門その後を受けた。

コツカパンシチロウ 小塚伴七郎 祿百五十石、定番御馬廻に班した。元祿十二年九月廿七日金澤紺屋坂下に於いて組外山本次太夫養子三郎兵衛と喧嘩の際、伴七郎の従弟御射手石黒平八といふ者通り合はせて助太刀し、三郎兵衛を即死せしめたが、伴七郎もその夜絶命した。

コツカヒテノリ 小塚秀得 大聖寺藩士。通稱藤十郎。山本新五左衛門の三男で、寛政九年小塚藤藏に子養せられ、文化十一年六月家督相続、祿百三十石を受け、文政七年樹木植栽の爲に植物方を置くべきことを獻言し、自ら植物方奉行に任せられた。次いで八年松奉行、十年兼用水奉行、天保十年産物方引請等に任じて、殖産興業の爲に盡力すること多く、安政五年致仕し、翌六年十二月七十五歳を以て歿した。江沼志稿の著がある。

コツカヒテマサ 小塚秀正 通稱八右衛門。淡路。仁左衛門の子で、權太夫の兄である。前田利家の尾張に居た時召出されて、五郎兵衛安勝に屬せしめられたが、慶長七年弟權太

夫の遺跡を襲ぎ、本祿三千七百石を受けた。權太夫鳥越・末森・巖石・八王子・大聖寺の諸役に從軍し、功によつて漸次九千石に上り、越中泊城を守つた。慶長七年太田長知の誅に服した後、大聖寺城の守將に轉せしめられたが、赴任の爲金澤に歸つて病死した。子なく、兄秀正後を襲ぐ。